

★OB・OG紹介

〈広島テレビ〉

秋信 裕子さん



Q. 仕事の内容を教えてください。

ローカルの放送局に勤めています。入社時は会社内のシステム担当をしていました。パソコンの管理や、基幹システムの保守とかで

す。今は、スポットデスクという営業の内勤の仕事をしています。

テレビ局は視聴者から直接料金をもらうやり方ではなく、広告料を頂くというやり方でビジネスをしています。その広告をどの時期にどの番組に入れていくかを決める仕事をしています。

Q. この仕事を選んだ理由は？

私は数理情報科学コースを経て工学研究科(大学院)で学びました。

就職活動するかしないかという時期までは高校の数学教諭になろうと思っていました。

コンピュータを使って生徒に学んでもらいたいことを視覚的に表現すれば理解度も高まるのではないかと、コンピュータを利用して授業をする教員になりたかったです。今、そういう教材がたくさんあるので、私がやりたかったことだなー、と感慨深く見えます。本題から逸れましたね。

高校の教諭には後からでもなれるから、一回普通の会社に就職するのもいいかもしれないと考えました。いろんな経験をもった人が教員になる方が生徒にも良い影響が与え

られると考えたからです。

同じ時期の話なのですが(当時はインターネットという言葉自体が何それ?という状態だった頃の話です)、東京キー局のホームページ制作のアルバイトを募集しているのを見つけて「地方に居てもできますか?」と問い合わせをしたら、それについては東京にいないとダメという返答だったので、なぜかその対応して下さった方が、「採用試験の募集を今しているから受けてみませんか?」と誘導して下さい、そこから、どこかに就職するなら面接の練習に放送局を受けるのもいいかもしれないと、東京キー局の採用試験を受けたところ、落ちたのですが複数の局で割といいところまで進みました。この経験でコンピュータに携わる人間が放送局で求められているのかな、と広島放送局を受けて、今の会社にご縁を頂いたことになりました。

なぜ選んだのかと聞かれると、紆余曲折できちんと選んでないのがつらいところです。

Q. 仕事と育児の両立について教えてください。

先輩方からは、両方ほどほどにするのがコ

ツだと教わりました。私は結婚と出産が人と比べて遅かったので、同年代の子たちよりも世の中が変わった分恵まれています。

パートナーも同じ会社に勤めているので、お互いがどういう仕事内容かわかりますし、スケジュール調整しやすく、恵まれているなと感じています。唯一努力したのは、半年前のことですが主人の親の隣の家につ越したことです。どちらの親も頼れないという方々が増えている中、助けてくれる人が近くにいるのも恵まれているな、と感じています。ところで、「仕事と育児の両立」という言葉は、どちらかという働く女性をイメージする言葉になってしまっていると思います。男性にも両立が求められているし、男女問わず育児を楽しんでもらいたいと思います。

Q. この仕事の魅力は？
縁の下の力持ち、などところです。

Q. 総合科学部を選んだ理由は？
高校時代に通っていた塾に広島大学総合科学部の現役の方がいて、当時どんな学部かを聞くと、「ひとことと言うとスペシャリストとジェネラリストの両方を目指すことを

学ぶ学部だよ」と言われ、この言葉に惹かれて選びました。

Q. 総合科学部でよかったと思うことは？
文系理系どちらの人間もいるので、いろんな種類？と言っているのかわかりませんが、いろいろなタイプの人に出会えたことです。

Q. 学生時代の思い出を教えてください。
千田キャンパスと西条キャンパスの両方を経験した世代です。

千田キャンパスでは、半地下の研究室にりびたっていたこと、そこで友人が増えて行ったことを覚えています。西条キャンパスに移ってからは、とにかく広いので、原付を使って、午前中は総合科学部と教育学部の授業、午後は理学部と工学部の授業、と一周ぐるっと回る曜日があったことを思い出しました。

Q. 総科生に一言お願いします。
色々な事を学んで、更に派生させていくことが可能な学部に入ったのですから、どんな学んでもらいたいです。勉強以外にもいろいろな経験をしてもらいたいなと思います。人事採用の面接官をする機会がありました

が、一つの事にたけている学生はもちろん魅力的なのですが、やはり複数の話題がある学生の方が魅力を感じました。

是非、今しかできない経験をどんどん積んでください。

Q. 今後の目標は？
仕事のことではないのが恐縮ですが、海外旅行が趣味で、学生時代からあちこち行かせてもらっています。

今は子どもが小さいので、リゾートが中心になっていますが、もう少し大きくなったら、アンテロープキャニオンに一緒に行きたいです。

〈自営翻訳業〉

橋本 金平さん



Q. 大学卒業後、一度お勤めされて広島大学に入学されたのですか？

普通の会社は60歳か65歳が定年ですが、自衛隊は体力がいる仕事なので、階級によって違いますが、53歳で定年でした。僕は53歳で辞めて再就職してから65歳まで一般の会社で勤めた後に、フェニックス制度で大学院に入学しました。自宅が廿日市にあつて、京都や東京に進学するのは難しかったので広島大学にしました。自衛隊出身者を受け入れてくれるか非常に心配だったし、実際、受け入れてもらえないだろうと思っていましたが、総合科学研究科に軍事的な論文を書いている先生がいらつしゃつたので行けるかなと思いました。

Q. 「自身の経験を活かしてアメリカ史などを学びたい」と思われたのですか？

そうですね。どうしてGDPが10倍もあるような国と戦争をしたんだろうと不思議に思ひまして、それでアメリカを研究しようと思ひました。

Q. 特に印象深かつた授業内容がありますか？

アメリカ貿易史の授業です。海軍のことを教える先生は広大にはいなかったのですが、海洋秩序を管理する海軍と貿易は深い関係にあるので貿易史の授業を取りました。

Q. 在学中、何かサークル活動などはされてましたか？

英会話などをやっていました。私が在学中は、TOEICの点数が550点で卒業資格でした。最高で650点ほどまでいったと思います。

Q. フェニックスで入学されるのはどんな感じでしたか？

私の場合はフェニックス制度ができたばかりで、先生方も60歳を越えた生徒を受け入れる余裕はあまりなかったでしょうし、自衛隊関係者を一般大学が受け入れることが難しい時代でもありました。今は様々な分野があるので、入りやすくなったのではないですかね。授業は、専門的なものが主でした。

Q. 広島大学では何を勉強されていたのですか？

国際社会論を勉強していました。アメリカ史とアメリカ海軍史です。

Q. ゼミのメンバーなどとのコンタクトはどうでしたか？

僕はその頃60歳くらいで、学生たちは30歳までの人で構成されていました。まあ大丈夫でした。

Q. そうなのですね。では、今のお仕事についてお聞きします。橋下さんは、会社を作られて翻訳をしているのですか？

いいえ。ちょうど湾岸戦争の時代だったので、海軍系の本が売れるだろうということで、出版社から依頼を受けてやり始めました。私は特に特許翻訳をしています。当時は400字で2千円くらいもらっていましたが、今は翻訳ソフトが出ていますからね…(笑)。

Q. まだお勤めされている時から、外部からの依頼が多かったんですね。在学中も翻訳の仕事をしていたのですか？

はい。月に10万円くらい稼いでいましたね。お金の余裕ができました(笑)。

Q. 翻訳は時間がかかりそうなイメージです

が、学業との両立は大変ではなかったですか？

夏休みなどを利用してやっていました。学生さんに手伝ってもらったりもしました。ただ、ちゃんとチェックしないとめちゃくちゃな訳をしてくる人もいました。例えば船の左舷を英語で Port と言いますが、同じ単語で港という意味もあり、意味を取り違えたことにより、船の中に港があるかのような話になってしまったり…。そういうのをきちんとしなければいけませんでした。

Q. これから挑戦したいことはなんですか？

僕はまだ翻訳をしています。しかし、今はスピードを求めて企業が何千人という翻訳家を雇って、膨大な量の翻訳対象をそれぞれに割り振って対処していたり、コンピュータにやらせている時代です。なので、自営の翻訳業というものはあまり将来がありませんね。年寄りにはきついですが(笑)。

Q. では、これから日本がどんな社会になれば良いと思いますか？また、そのために総合

科学部の学生に向けてアドバイスはありますか？

まずは、グローバル化。その中で日本が生きてゆくのではないかと思います。そして、イノベーション。技術開発や新技術を受け入れる能力などが重要になってきますし、現在の年功序列の制度に関わってくると思います。年齢に相対的な給料が保証されなくなると、女性が働きに出たりすることにもなりますし、いつも女性が育児家事を行うのではなく、バックアップできるような社会が大事になってきます。また、今は4組に1組が離婚し得る時代なので、シングルマザーを支援する活動も必要ですね。

Q. 総合科学部の学生に向けてアドバイスがあればお願いします。

学生のうちに、将来に向けて、資格などの身につけられるものはどんどん身につけておいてください。特に英語ですね。実際、「勉強しておけばよかった」と言っている友人がいます。就職後に取ろうと思っても、残業なども相まって難しいです。貪欲に様々な

ことにチャレンジしてください。そして、僕自身も在学中にとっても活用したのですが、中央図書館には歴史的な図書や資料がたくさん保管されているので、ぜひ行ってみてください。